

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600380	事業の開始年月日	平成23年11月1日
		指定年月日	平成23年11月1日
法人名	株式会社 日本アメニテライフ協会		
事業所名	花物語 さがみ東		
所在地	(〒252-0318 ) 相模原市南区鶴間本町6-4-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		エント数	2エント
自己評価作成日	平成27年2月	評価結果 市町村受理日	平成28年6月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様の定期往診日（個別往診）には往診医の他にクリニックの看護師、施設の看護師（非常勤）、調剤薬局の薬剤師が立会いをして診察結果や薬処方について、施設長、看護師が直接ご家族様に報告し、ご安心頂けるよう努めています。</p> <p>地域に開かれた施設をめざし、地域のお祭りに出店したり、サロン活動への参加（出かけたり、催して迎えたり）や地域の防災訓練などには欠かさず参加しています。健康フェスティバルを定期開催し、地域住民を招いて健康を考えて頂く取り組みを行っています。</p> <p>地域の保育園児との交流は定例化し、相互のイベントに行き来し、お互いに楽しんでいます。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年2月25日	評価機関 評価決定日	平成28年5月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、小田急線相模大野駅から国道16号線を越えて南東方向へ徒歩約10分の住宅地にある。木造2階建ての2ユニットで、同法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。運営推進会議、避難訓練、イベントの実施、ボランティアとの交流などを合同で行っている。</p> <p><b>【施設理念に基づいたサービスの実践】</b> 4項目から成る理念の実践には、管理者の風通しの良い事業所運営と職員との連携がある。利用者や家族からの意見や要望は、即座に管理者に伝わる体制を整え、職員全体で活発な意見交換を行って、サービスや運営に反映している。</p> <p>職員は、利用者に対して年長の家族に接するように、親しみの中に「敬意と尊敬の念をもった態度」で接している。午前中に家族の付き添いで退院した利用者には、管理者を始め職員が笑顔で出迎えたところ、家族ともども我が家に戻ったような安堵の表情を浮かべていたのが印象に残った。</p> <p>「安全で安心な生活の支援」では、リビングや居室は日常の清掃が行き届き、トイレ清掃は特に念入りに行っていた。清掃業者が年4回清掃とワックスがけを行っている。医師・看護師・薬剤師によるチーム医療により健康管理が行き届いている。散歩の際に外気温が低いのに気づいた職員が、利用者に対して手袋や防寒着の着用を勧めていた。</p> <p>「笑顔で生き活きとした生活」を送ってもらうために、職員は常に笑顔で利用者に接して意向や思いを引き出している。家族との話し合いや情報発信もきめ細かく行って意見を交換し、利用者のケアやリハビリテーション、介護計画の内容に反映させている。</p> <p>「開かれた施設づくり」を実現するために、管理者を始め職員が連携して自治会活動への参加、地域のまちづくり運動への協力、保育園児との交流、ボランティアの来訪などを実現し、事業所や利用者が地域のメンバーとして暮らしていけるように努めている。訪問時には、保育園児が訪れて歌を披露したり、利用者や園児が笑顔で寄り添ってリズムをとりながら一緒に歌ったりしている様子は、お互いが馴染みの関係にあることが見て取れた。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	花物語 さがみ東
ユニット名	1階 ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「開かれた施設づくり」を設け、地域の催しには職員と入居者として参加し、有事の際の避難誘導の協力依頼を行っている。施設の催しには、地域の住人に参加のご案内を行っている。	管理者は、日頃から理念について繰り返し話して周知を図り実践に結びつけている。現在は、事業所から情報発信し、地域の方が気軽に入りやすい「開かれた施設」を目指している。事業所や利用者が地域になじみ、その一員として暮らせるように努めている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なボランティア活動の受け入れと、近隣の保育園児との交流。	自治会に加入し、どんと焼きや夏祭りに参加している。近隣の保育園児が来訪し、歌や遊戯を披露して利用者とは交流している。散歩時に練習風景を見学してから交流が始まったフラダンスグループや民謡の会が定期的に来訪して踊りや謡を披露している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行っている。	運営推進会議は2か月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族の他に公民館のサロン担当者が出席している。ホームの現状や人事異動などの報告の後、参加者から意見や情報をいただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相模原市高齢政策課および相模原市南高齢者相談課への報告事項は行っているが、必要事項にとどまっておらず、事実上やサービスの取り組みを積極的に伝えるとはいえない。	相模原市高齢政策課や南区高齢者相談課には、運営推進会議議事録や外部評価結果を提出し、情報交換などをしながら連携している。大野南地区まちづくりの一環として上鶴間公民館で開催される、高齢者サロンに利用者が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護を実施している。排泄パターンを把握し個別に誘導を行いオムツから布パンツに移行できるよう取り組んでいる。	契約書に身体拘束をしない介護について明記し、入居時に説明している。フロア会議の際に、身体拘束排除について話し合って周知を図っている。管理者は、言葉による制止などがあるときはその場で職員に注意している。ユニット入口は自動ロックを設置し、玄関は日中開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のご利用者様に対する態度、対応に気づいたときはすぐに注意し合っている。外部研修等の報告書などを全職員と共有し防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度の対応を行い職員間に知らせているので、運営に反映できているが、外部者へ表せる機会は設けていない。	ほとんどの家族が近隣に在住しているため来訪の機会が多い。面会時に意見や希望を聞き取っている。ホームでの日常の様子を知りたいとの家族の要望を受け、利用者の活動状況を文書にして配布している。車椅子利用者の家族からは、立位を保てるようにしてほしいとの要望があり、手すりなどを利用して機能訓練をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は会議を行っているが、日常的に相談する機会があり、早めの対応をしている。	管理者は、職員が意見や提案を言いやすいように、風通しの良い事業所運営を心掛けている。家族の要望を聞いた職員の発案で、2か月に一度、利用者の状況を便せんの手書きして請求書に同封して送付し、家族から喜ばれている。入浴の時間を午後にして、午前中はアクティビティにあてようという提案も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議、個別の面接を通じて勤務シフト、給与、社会保険加入、有給休暇の取得について説明している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時導入研修は入社後経過した職員も受けることができる。 外部からの研修案内も起き、希望する職員が参加の機会を増やせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	一部の職員にとどまっているが、同業者との交流の機会に参加し情報交換の機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族同士で面接を行い、ご本人のご希望や不安材料を聞きながら、ご本人が希望を持ち、安心・安全に生活できるような関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご利用者の訴えに対して聞き取れるよう努めている。場合によってはご家族だけと面談し、ともに本人が安心・安全に生活を考えていける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の得意なことを生かし、調理や洗濯ものたたみなどの役割などを持っていただき存在意義を持っていただけるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の来訪時に、ご本人の日常の様子を報告し、電話で報告相談をしながら、ともにご本人の生活を支えあえる関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を大切にし、情報交換を密に行い、情報共有をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のなじみのある、公園やスーパーに出かけるようにしている。	書道の先生をしていた利用者の弟子が訪ねてきて、一緒に外出を楽しむことがある。正月には家に帰り、家族と過ごす利用者もいる。知人と絵手紙のやり取りをしている利用者には、返事を書く支援をして、散歩時に投函している。友人や知人が来訪した際は、湯茶で接待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル席等、ご利用者様同士の相性の良さを見て決めており、トラブル等があれば、早期に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、ご家族からの相談に対応できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に声掛けを大切にし、ご利用者様の言葉などから意思を把握し、困難な場合は、ご家族様から情報を得るようにしている。	職員は、日頃から利用者とコミュニケーションを密にし、思いや意向を汲み取る努力をしている。介護度の高い方や意思の疎通が困難なケースでは、表情や仕草などから心のメッセージを読み取っている。把握した意向をフロア会議などで検討し、利用者の食事形態を変えた事例がある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にキーパーソンとなる家族から生活歴をうかがう。それを職員で共有し活用している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活、行動や言葉等を職員で共有し把握に努めている。毎朝のバイタルチェック、看護職員との連携、緊急時の往診医への報告相談や指示による受診等、医療体制が整っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様のニーズや変化を、計画作成担当者を交えたカンファレンスにて情報交換をし、プランに反映させている。	介護計画は、個々のニーズや課題を抽出して作成している。計画作成担当者は、計画の素案を職員に提示して意見を求め、必要に応じて修正している。職員は計画を認識し、サービス内容と連動した実施記録をつけ、毎月行うカンファレンスで意見を交わしている。計画の見直しは3か月、利用者の状況に変化があった場合は随時行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの日誌に、日常生活で行った行動や言葉等を記録し、申送り等にて共有し、個別ケアに生かしている。			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用様の日々の変化を見落とすことなく報告相談し、ご本人やご家族のニーズに合わせて情報収集を行い、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や公園、外食など外出の機会、サロン活動への参加、地域での暮らしを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用以前からのかかりつけ医はもとより、内科往診・歯科往診により、ご利用様の健康維持体制を整えている。うち、内科医とは24時間相談ができる状況にあり、連携が取れている。	協力医の往診は月2回である。協力医には、同医療機関の看護師、事業所の非常勤看護師、薬剤師がチームを組んで支援している。医師がカルテに診療・薬剤情報を記入し、事業所は「居宅療養指導書」に情報を記入している。薬剤師は服薬管理を行っている。専門医への通院は、原則家族が付き添っている。歯科医は必要に応じて往診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用様の状態の変化や気づきを看護職員に報告し、往診クリニックの看護師・医師とは24時間コール体制をとり、適切な指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院中もご家族や医療機関との連携、相談を行うように心がけて退院時にスムーズに受け入れができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と入院先に主治医（入院の場合）、施設往診医の医療関係者と施設側との連絡・相談を密に行い、施設にて出来る限り最善策について話し合う機会を設けている。	医療と連携して、「重度化した場合の対応に係る指針」を契約時に説明し、家族の同意を得ている。協力医とは24時間オンコール体制をとっている。緊急事態の対応や連絡について「緊急の場合はまず救急車を呼び、次いで管理者へ連絡すること」を職員に徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は管理者や看護師に報告し、指示を受けて対応している。急変や事故のマニュアルを備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にも協力して頂き、日中・夜間を想定した訓練、避難訓練を定期的に行っている。	避難訓練は年2回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。夜間想定訓練も行っている。災害備蓄は法人が用意して事業所に配布している。飲料水、食糧、備品など約3日分を備えている。厨房などの食器棚は作り付けで冷蔵庫は転倒防止対策をしている。	一時避難した利用者の見守りなど、災害時は地域の方の協力が必要です。地域の住民や地区消防団と、連携体制をつくることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧で親しみやすい言葉づかいと接遇を心がけている。 個人記録には他ご利用様をイニシャルで書き、特定できないようにしている。	理念を実践して、利用者を人生の先輩として敬意を持って接し、サービスを行っている。家族が来訪した際には、プライバシーに関する話をする時は相談室を利用している。リビングでは、排泄チェック表や記録類は伏せて置いている。個人記録は書棚に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用様の思いや希望を表せるよう努め、自己決定できるよう心掛けている。 (例 美容院)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できること、できないこと、一人ひとりのペースを理解し、ケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は自由に着こなして頂き、できない方はご本人と相談し、その日の気温などに合わせて支援。着衣が汚れてしまった時は、洗濯し清潔な着衣で過ごして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿洗い配膳、盛り付け等の作業を一緒に行い、月に1回行事食を作っている。	専門業者が献立と食材を配達し、職員が調理している。利用者の状況に応じて食べやすく刻んだりしている。利用者は、もやしのひげとりや配膳、洗いものや食器拭きなどを手伝っている。職員は、見守りや介助を行っている。ファミリーレストランで外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取、食事摂取量を記録している。 食材宅配業者を利用しており、栄養士による献立作りとなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、自立されているご利用者様は自室の洗面台で行ってもらい、介助が必要な方は介助を行う。 夜間は義歯を洗浄剤に浸けて、お預かりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に誘導、声掛けを行っている。	排泄チェック表を参考にして、利用者ごとの様子や表情を見て、声をかけたり誘導を行っている。薬に頼らず、食物繊維をバランスよく摂ることによって便秘を解消した事例がある。トイレは全て車椅子等の対応が可能で、十分なスペースがあって介助がしやすく、清潔で臭いも感じられない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に最終排便日や水分摂取量を記録し毎朝の申送りで職員間で共有し把握している。自力での排便が困難な方には、医師の指示に従い、下剤を投与している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、その日の体調等に合わせて入浴の支援を行っている。	入浴は原則として週2回で午後の時間帯である。利用者の希望や状況で入浴日を変えることもある。利用者の体調などにより、シャワー浴や清拭に変えている。浴槽の湯は一人ひとり変えている。暖房器具を使用して浴室全体の温度管理をしている。季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調に合わせて、自室で休息や臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・容量・目的・副作用は個人ファイルを観ればわかるようになっている。変更等があった場合看護師から情報が伝達され、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの力に応じて、力を活かした役割を行ってもらっている。気分によって散歩をしたり、一対一で対話したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を毎日できるよう支援している。また、普段行けない場所は、ご家族様に面会や外出等を可能な限り行って頂けるよう声掛けを行っている。	散歩は、冬場は防寒に配慮して午前中に出かけている。夏場は夕方涼しくなってから出かけている。車椅子の方にも対応している。年間の外出計画を立て、法人の大型バスを使用して、全員で花見や紅葉狩りに出かけている。その際は、あらかじめ職員がトイレの設置場所などの下見をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様と一緒に買い物を楽しむことができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から施設にかけて頂いた電話を取り次いだり、ご本人の希望であればご家族に電話を取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で清潔な環境維持に努めている。リビング、玄関等に季節の花を生けている。	玄関やリビングに生花を飾り、毎週取り替えている。リビングは空調設備や加湿器により温度・湿度が快適に保たれている。車椅子の動線を確保し、どこからでもテレビが見られるように考慮して、ソファ、テーブル、椅子が配置されている。壁には、利用者が作った季節の切り絵、貼り絵、行事の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが2つあり、そこで気の合ったご利用者様同士で過ごされたり、1人で過ごしたいご利用者様が互いに不快に感じない空間づくりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品等を居室に持ち込んで頂き、その人らしい過ごし方をして頂けるようにしている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、ベッド、洗面台が常備されている。利用者は、テレビ、防災カーテン、テーブル、チェスト、趣味の道具など馴染みのものを持ち込んで住み心地良くしつらえている。衣類の整理や部屋の清掃は、個室担当者が利用者と相談して行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置。ベッドは高さ調節ができ、個々に応じた高さに調節している。書く居室入口に表札をつけて、自室が分かるようにしている。		

事業所名	花物語 さがみ東
ユニット名	2階 ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「開かれた施設づくり」を設け、地域の催しには職員と入居者とで参加し、有事の際の避難誘導の協力依頼を行っている。施設の催しには、ご家族、近隣住人に参加のご案内を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なボランティア活動の受け入れと、近隣の保育園児との交流。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告を行っている。 サービス内容についての意見が出されることがない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相模原市高齢政策課および相模原市南高齢者相談課への報告事項は行っているが、必要事項にとどまっており、事実上やサービスの取組みを積極的に伝えるとはいえない。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護を実施している。ベッド→車椅子→椅子の生活、ホールでの食事・水分摂取、見守りの強化。医療との連携による薬の投与、塗薬や保清ケアによって身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時導入研修で学ぶ機会があるほか、虐待防止に関するファイルを置き、ケア中の言葉づかいなどから、虐待に発展していく可能性に気付いた時点で、職員同士が注意しあったり、管理者から直接注意を与え、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	都度の対応を行い職員間に知らせているので、運営に反映できているが、外部者へ表せる機会は設けていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行っているが、日常的に相談する機会があり、方向性が決定した事項は全体に情報伝達している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議、個別の面接を通じて勤務シフト、給与、社会保険加入、有給休暇の取得について説明している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時導入研修は入社後経過した職員も受けることができる。外部からの研修案内も置き、希望する職員が参加の機会を増やせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	一部の職員にとどまっているが、同業者との交流の機会に参加し学習し機械や情報交換の機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族同席で面接を行い、ご本人のご希望や不安材料を聞きながら、ご本人が希望を持ち、安心・安全に生活できるような関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご利用者の訴えに対して聞き取れるよう努めている。場合によってはご家族だけと面談し、ともに本人が安心・安全に生活を考えていける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の得意なことを生かし、調理や洗濯ものたたみなどの役割などを持っていただき存在意義を持っていただけるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様の来訪時に、ご本人の日常の様子を報告し、電話で報告相談をしてもご本人の生活を支えあえる関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係を大切にし、情報交換を密に行い、情報共有をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、行きつけの美容院や入居前の仕事の付き合い等、馴染みの関係を維持出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配膳を工夫している。職員が間に入り、ご利用者様同士がコミュニケーションを図れるように支援している。必要に応じて席替えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、ご家族からの相談に対応できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の生活歴や趣味活動等を把握し、提供している。ご家族様からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用に至る経過やご本人の生活歴・環境などの情報を職員同士で共有できるように、個人情報ファイルに入れて活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、血圧・検温・脈拍を測定し、記録している。記録や申送り、連絡ノートを活用し、日々の生活の中での必要な情報を職員同士で共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議、ユニットのカンファレンスにて職員の気づきやご利用者様・ご家族様の要望・意見を取り入れ、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録したことや日々のケアによる気づき、工夫をユニット会議や申送りにて共有し、個別ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の変化を見落とすことなく報告相談し、ご本人やご家族のニーズに合わせて情報収集を行い、柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や公園、外食など外出の機会、サロン活動への参加、地域での暮らしを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用以前からのかかりつけ医はもとより、内科往診・歯科往診により、ご利用者様の健康維持体制を整えている。うち、内科医とは24時間相談ができる状況にあり、連携が取れている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の状態の変化や気づきを看護職員に報告し、往診クリニックの看護師・医師とは24時間コール体制をとり、適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院中もご家族や医療機関との連携、相談を行うように心がけて退院時にスムーズに受け入れができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と入院先に主治医（入院の場合）、施設往診医の医療関係者と施設側との連絡・相談を密に行い、施設にて出来る限り最善策について話し合う機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は管理者や看護師に報告し、指示を受けて対応している。 急変や事故のマニュアルを備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にも協力して頂き、日中・夜間を想定した訓練、避難訓練を定期的実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧で親しみやすい言葉づかいと接遇を心がけている。 個人記録には他ご利用様をイニシャルで書き、特定できないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用様の思いや希望を表せるよう努め、自己決定できるよう心掛けている。 (例 美容院)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	できること、できないこと、一人ひとりのペースを理解し、ケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は自由に着こなして頂き、できない方はご本人と相談し、その日の気温などに合わせて支援。着衣が汚れてしまった時は、選択し清潔な着衣で過ごして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皿洗い配膳、盛り付け等の作業を一緒に行い、月に1回行事食を作っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取、食事摂取量を記録している。 食材宅配業者を利用しており、栄養士による献立作りとなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、自立されているご利用者様は自室の洗面台で行ってもらい、介助が必要な方は介助を行う。夜間は義歯を洗浄剤に浸けて、お預かりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的に誘導、声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に最終排便日や水分摂取量を記録し毎朝の申送りで職員間で共有し把握している。自力での排便が困難な方には、医師の指示に従い、下剤を投与している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴日を決めているが、その日の体調等に合わせて入浴の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調に合わせて、自室で休息や臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・容量・目的・副作用は個人ファイルを観ればわかるようになっている。変更等があった場合看護師から情報が伝達され、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの力に応じて、力を活かした役割を行ってもらっている。気分によって散歩をしたり、一対一で対話したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を毎日できるよう支援している。また、普段行けない場所は、ご家族様に面会や外出等を可能な限り行って頂けるよう声掛けを行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様と一緒に買い物を楽しむことができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から施設にかけて頂いた電話を取り次いだり、ご本人の希望であればご家族に電話を取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で清潔な環境維持に努めている。 リビング、玄関等に季節の花を生けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが2つあり、そこで気の合ったご利用者様同士で過ごされたり、1人で過ごしたいご利用者様が互いに不快に感じない空間づくりを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品等を居室に持ち込んで頂き、その人らしい過ごし方をして頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置。 ベッドは高さ調節ができ、個々に応じた高さに調節している。 書く居室入口に表札をつけて、自室が分かるようにしている。		

目標達成計画

相模原市  
高齢政策課 2  
受 28.6.16 付  
F No. . . .  
保存 年

事業所名 花物語 さがみ東  
作成日 平成28年6月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所のカモ活かした地域貢献	AED設置の看板提示だけでなく地域の方々に広く知っていただく	実際には地域に呼びかけ使用方法など勉強会、説明会を行う	6ヶ月～ 12ヶ月
2	8	権利擁護に関する制度の理解と活用	資料などの準備により学習の機会を得る	会社も含めた取り組みとし内部外部の勉強会を行う	6ヶ月～ 12ヶ月
3	35	災害対策	地域の方々の協力をいただき災害時の連携体制の整備	年1回の避難訓練時自治会への呼びかけをしながら地域の人々の類々な声を大に聞き取り組みを行う	6ヶ月～ 12ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。